

審議会等の会議結果報告書

		課所名	環境課
会議名	令和6年度 第1回諏訪市環境審議会		
開催日時	令和6年7月19日（金） 13時30分から15時まで		
出席者	《委員》 宮原 裕一委員、小山 雅美委員、牧野 透太委員、小松 弘明委員、笠原 雅男委員、 小口 和恵委員、古林 絵美子委員、小針 知栄美委員、伊東 克幸委員、藤森 恵吉委員、 小林 佐敏委員、岩波 純一委員、大舘 道彦委員、忠地 利和委員、小口 かおり委員 《諏訪市》 金子諏訪市長、大舘市民環境部長、中澤環境課長、片桐環境保全係長、 茅野ゼロカーボンシティ推進室主査、志賀環境保全係主査 （傍聴者3名※報道含む）		
資料	次第、資料1、資料2－1、2－2		
協議議題（内容）及び会議結果（要旨）			
1 開会（進行：中澤環境保全係長）			
2 市長挨拶（金子諏訪市長）			
・本日は、新たにご委嘱を申し上げることになる。環境問題、地球温暖化については、自治体や企業、団体、個人、また、国を挙げて地球上のすべての皆様が力を合わせて取り組まなければ、2050年のゼロカーボン達成するということは難しい。諏訪市としても、ゼロカーボンシティ推進室を昨年度から設置し今年度から専任担当を入れて、充実を図っている。 ・当市としても、令和4年度から第三次諏訪市環境基本計画の計画期間をスタートさせ、進めている段階である。 ・審議会が関わる分野は非常に広範囲に渡るが、よりよい環境を作っていくという目標を達成するため、進捗管理をし、ご指導をしていただく。 ・諏訪市でも令和4年の3月にゼロカーボンシティ宣言をした。こちらは行政だけがやればできるという話ではない。商工会議所や企業の代表者、子どもたちの代表者など、いろいろな皆様と共同で宣言をした。また、「ゼロカーボンシティ推進戦略」を策定し、令和6年3月に第三次諏訪市環境基本計画の一部改訂をするなど取組を進めている。 ・本日は専門家や有識者などあらゆる分野の皆様から選出をしている委員の皆様に委嘱を申し上げ、この環境審議会の取組を本日からスタートしたいと思っている。 ・本日は、環境基本計画、環境審議会の立ち位置や役割を含めて確認をした後に、先日の環境推進会議で実施した、令和5年度の取組の進行管理状況について確認をいただく。 ・当市の取組状況について把握をしていただき、今後の検討につながる機会としていただきたいと思います。			

・本日はよろしくお願いいたします。

3 委嘱状交付

※出席委員全員に委嘱状を交付

4 自己紹介

※宮原委員より名簿順に自己紹介

5 会長・副会長の選出

※事務局からの腹案により会長に宮原委員、副会長に小針委員を選出

6 説明事項（議事進行：宮原会長）

（1）本日の会議について **資料1**

※資料1及びスクリーンに投影した補足資料を基に、環境基本計画の概要、環境審議会の任務及び本日の会議概要について説明

【質問・意見等】

なし

7 報告事項

（1）令和6年度諏訪市環境推進会議の開催状況について **資料2-1**、**2-2**

第三次諏訪市環境基本計画の進行管理

※資料2-1、資料2-2及びスクリーン投影補足資料を基に第三次諏訪市環境基本計画の進行状況、特徴的な取組、環境推進会議委員からの主な意見及びそれに対する担当課回答について報告

【質問・意見等】

○身内が亡くなった際に遺体安置したが、今はドライアイスを入れると二酸化炭素が出るということで、ドライクーラーという二酸化炭素を出さないものにしたと知り、このような取組をしていることに感激した。

○学校教育の話が出たが、まだとても足りない。大人になる前の教育はもっと考えなくてはいけない。

○原村で地球温暖化対策実行計画に向けたワークショップを行ったところ、50人以上が集まり感心した。もう一度市民に浸透する教育の仕方や方法を考えるべきだと思う。

○これだけの盛りだくさんの取組に対して、市民にどのようにわかりやすく発信できるか。やはり市民を動かし、浸透させないといけない。諏訪市の二酸化炭素排出量の数字を市民がすぐにわかるか。ゼロカーボンと言っているのだから、それに向かって今どのような状況かということが、市民の誰に聞いてもわかるぐらい浸透が必要ではないか。

一わかりやすく伝えることについては、環境推進会議でも意見として出てきた。例えば広報すわ6月号に関してはゼロカーボンについて、昨年度と同じように特集をしている。これに関しては地球環境、温暖化が進むとどうなるかというところに一度立ち戻って伝えてもよいのではないか、という話もいただいている。内容は検討したうえで、来年度も継続して、掲載していきたい。環境活動全般に関して周囲の方と一緒に取り組むことを重要視している。またこれまで、ただ取り組んで終わっていたという状況だったが、その結果についてもしっかりと発表し

ていく必要があることから、市民の方と一緒に取り組んだ結果をうまく発表していけたらと考えている。この発表に関しては我々だけではできないところもある。現在、諏訪信用金庫様の店舗で動画を放映していただいている。同じような協力を他の企業でもいただけるという情報があれば共有いただきたい。

一学校教育について、小さい頃からの意識醸成が重要。一方で教育現場の負担というところも、考えなくてはならない。その中で現在の形で実施しているが、より良い教材や手法など継続して検討していきたいと考えている。

一ワークショップなどの手法で実施している地域もある。手法は市民、事業者など交えて実施できるような取組を検討していかなければならないと考えている。10月からは、脱炭素に関するイベントを半年ほど実施する。これに関しては、広報やメールマガジンなどで周知させていただくので、皆様にも参加いただければと思っている。

○本校で環境教育は何かと考えてみたが、昨年度は5年生が太陽工業と一緒に環境活動をおこない、今年度は4年生がごみの勉強としてエコポッポに行った。その際、市からバスを出していただき、立石公園に行って学校の眺望を見たのち、霧ヶ峰でニッコウキスゲなどを見て、このような自然を守るために私たち一人一人が取り組まなければいけないことを学ぶような活動をした。あるいは学有林へ行き、山で遊ぶという活動をし、幼い頃に自然と遊んだ経験を持って、将来の環境教育に対する気持ちを育てていこうということをしている。ただ、先ほど話があったように、これは各学校が個々にそれぞれの担任による工夫でおこなっているところが大きいと思う。審議会に参加させていただいて考えたのは、市内で取り組んでいるものを集約し、諏訪市の環境課とも一緒になって諏訪市の子どもはこの環境を学ぶ、というようなカリキュラムづくりを今後進めていくと良いのではないかと感じた。

○先ほど諏訪市の広報の話が出た。諏訪信用金庫では、デジタルサイネージといって、各店舗にテレビ画面のようなものを置き、広告等を映している。その中で、諏訪市のゼロカーボンでこういう取組をしているということを映している。各店舗にあるので、来ていただいているお客様の目につくようになってきているかと思う。

○長野県環境保全協会というところから参加をさせてもらっている。この保全協会は、地域の企業が中心となって、環境の取組を一緒に進めていこうというような団体である。3月に、企業での脱炭素に向けた勉強会を開催し、諏訪市からも事例発表をしていただいた。事業者と市がどういう取組をしているかなど情報交換会や会議についても、今後ご案内したいと思うので、足を運んでいただければ。

○初めて審議会に参加し、たくさんの学びがあった。諏訪市の取組に素直に感動した。環境問題への取組は意識改革と問題意識の向上に尽きる。日々の意識改革、家庭での意識改革が一番重要。様々なイベントに家族で参加し、家族で問題意識を持っていくということが、早道。

○トライアスロン大会に関わっているが、県外の皆様は諏訪湖で泳ぐことに抵抗はないが、地元にいる私たちは抵抗がある。そういう意識を変えていかなければいけない。来年のトライアスロン大会の時に、「綺麗な諏訪湖で選手が泳いだ」というような成果が目に見えるイベントを開催できないかなと思っている。

○信州ゼロカーボンBOOKというものがある。具体的に何をやるかということが学べると思うのでぜひご活用いただきたい。

9 閉会